

## アヴァンギャルドな建築家やデザイナーが「既成概念を超えた」 北京の新しいラグジュアリーホテル ザ・オポジット ハウス

2008年5月



世界的に有名な日本の前衛的建築家、隈研吾、さらに最先端のデザインを上海から発信しているリンドン・ネリ&ロザンナ・フーが「既成のホテル概念を破る」べく手がけている、北京の最新ラグジュアリーホテル「ザ・オポジット ハウス」。これは新鋭のホテル運営会社、スワイヤー・ホテルズが今後、展開を予定している個性的なホテルコレクションの第一号です。

スワイヤー・ホテルズの代表、ブライアン・ウィリアムズは「ザ・オポジット ハウスで隈研吾氏とネリ&フーを選んだのは大正解でした。そしてスワイヤー・ホテルズは今後も世界トップクラスの建築家やデザイナーと積極的に仕事をしていきたいと考えています。」と語っています。

隈研吾氏は東京にあるLVMHグループジャパン本部やサントリー美術館等、独創的なデザインの商業スペースを手がけてきたことで有名です。これらは光とスペースの「空間経験」を楽しめるようにデザインされており、このラグジュリアスなコンテンポラリーホテル「ザ・オポジット ハウス」でも、変化していく光と空間を一日中感じていただけるでしょう。彼は今までに存在した建築の限界を新たに定義づけ、光があふれ流れるような、無限のスペースを作り上げます。

エメラルド色に輝くガラスに覆われたホテルの外観は、同じくガラスを使用している三里屯のザ・ヴィレッジと調和しています。ザ・ヴィレッジは北京初のオープンプラン設計によるショッピング&エンタテインメント施設で、ザ・オポジット ハウスはその中心的な存在です。

ザ・オポジット ハウスのインテリアカラーや素材はモダンと伝統が鮮やかに組み合わせられています。ホテルのロケーションは、賑やかなナイトライフのエリアでありながら、閑静な住宅街にも隣接しています。それを象徴するかのよう外観は鮮やかなものでありながら、内装はやわらかく、プライベートと居心地を大切にしています。全体的なテーマカラーであるグリーンは静寂な「アーバン・フォレスト」のイメージであり、これは自然光と照明をうまくいかすために必要なデザイン要素です」と隈研吾氏はコメントしています。また「小さい、ラグジュリアスなこのコンテンポラリーホテルには、プライベートとパブリックの微妙なバランスが成り立っています。自宅のような居心地と、隠れ家的要素を提供しつつ、人々が自然に惹きつけられ、自然に集る賑やかなパブリックスペースも必要です。この繊細なバランスを作り上げるために、各スペースの境界線を曖昧にしました。」と隈研吾氏は加えています。

さらなるホテルのユニークな特徴の一つは、ステンレススチールで覆われた近未来的スイミングプールです。自然光と光ファイバー照明の両方をドラマティックに映し出すよう設計されています。

客室はとてもオープンかつシンプルで、フローリング、家具、さらにはバスタブにもナチュラル・オークが用いられています。室内の随所には中国風タッチの装飾がちりばめられており、北京（中国）のセンス・オブ・プレイスが生かされています。

レストラン、ミーティング・エリア、そして「ミニ・クラブ」のデザインを手掛けた、上海在住の国際的な建築デザイン事務所、ネリ&フー・デザイン・リサーチ・オフィス（NHDR0）のリンドン・ネリ氏とロザンナ・フー氏は、最近では香港のペダー・レッド本店やザ・オリエンタル バンコクのレストラン、チャイナ・ハウス等を手がけたことで知られています。なおデザインを担当するにあたり、このユニークなレストランやバーのコンセプトをプロデュースした同上海在住の企業家シェフ、デビッド・ラリスと親密にコラボレーションしてきました。

「地下の打ちっ放しのコンクリートの壁を見た時に、まずはこの大きな洞窟のような空間を五つの異なりつつもリンクしている、インタラクティブスペースにしようと考えました。五つの要素につながる異なる素材を巧みに利用し、それぞれの個性が際立つようにしたのです。」とネリとフーは説明しています。

エレベーターから出たゲストはまず深いブロンズ色の敷居を越えて真っ白な「エッグ」とよばれるエレベーターホールに足を踏み入れます。スチールでできたフロアは丸いドーム型の天井をさかさまに映し出し、まるで宙に浮いているような感覚にとらわれます。デザイナーは「生命の誕生であり、疲労困憊した者への啓示です。これから放縦なエリアにたどりつく前に、厳粛で静寂なこの「エッグ」が目に癒しを与えるのです。」と、このコンセプトを説明しています。

次のエントランスともいえるコンクリートの階段部分にもこのテーマは意識されています。階段をたどると屋外の「一段下がった庭園」へとつながり、竹や水で囲まれたこのスペースは待ち合わせの場所として、また、コーヒータイム、アウトドアパーティーなどにも最適です。

またこの「庭園」は、温かみのある木目と青々としたオリーブの林の模様に囲まれた地中海レストラン「Sureño」に隣接しています。レストランの中心には薪のオープンがあり、そのオープンに面したカウンター席からは、シェフが料理する様子を目の前でお楽しみいただけます。

アジアンレストラン「Bei」に足を踏み入れたゲストは、木立に囲まれ通路を抜け、森林の中に造られた休息所をイメージするダイニングルームに到着します。このダイニングルームでも同様にゲストは巨大な斜めに張られた鏡に映る、シェフの見事な手際をお楽しみいただけます。

大きなブロンズのドアをくぐり、水路を渡るとさらに奥には、魅惑的で秘密めいた五つの白い「箱」型のプライベートダイニングルームがあります。各部屋には異なる特徴があり、豪華な家具、インテリアに飾られています。最も大きな個室には、水が壁を流れ落ちる演出も施されています。これらの個室ダイニングは「完全なプライバシーと特別なダイニング体験を提供する」ことが基本コンセプトです。

一方、対照的「パンク」は、周りを囲むプライベートダイニングルームより一段下がった場所に位置したナイト・バー&ミニ・クラブで、透明な箱のようなこのバーは、不規則に凹凸をつけたメタル・スクリーンに包まれ、北京で最もホットなバー&クラブとなるでしょう。

教会のベンチのような椅子が壁際を沿い、モジュラー・テーブルが散乱するように並べられ、コンクリート素材のバー・カウンター、ドイツのデザイナー、グルッチの角と流線が美しいスツール、さらに風変わりなマーティン・バースの作った焦げたシャンデリアなどの存在は「正道と邪悪、ラフとスムーズ、チョイ悪と如才なさ、クールとあたたかみ、究極のラグジュアリーとパンクが共存」をテーマにした雰囲気をつくりあげています。

NHDROは「私たちがいちばん大切にしたいことは、それぞれの施設が単なる行き先としてではなく、ザ・オポジットハウス全体の空間を築く素材としてとらえることでした。プロジェクト全体としても、まるで、街の中に存在する町、を感じ取ることができるように…」と説明しています。

北京の三里屯地区にスワイヤーグループが開発中の一流ファッション複合施設「ビレッジ」の中心的な施設の1つとして、この魅力的なブティックホテル、ザ・オポジットハウスは2008年夏によいよオープン予定です。



シンプルなデザインのゲストルームはナチュラルなフローリングにチャイニーズタッチのデコが施されています



レストラン「ベイ」では日本、中国北部、韓国といった北アジアの伝統料理が生まれ変わって登場します



三里屯地区に建設中の北京随一のオープンプラン・ショッピングゾーン「ビレッジ」ザ・オポジットハウスはその重要な一部としてオープンします

#### ◇ スワイヤー・ホテルズについて ◇

スワイヤー・ホテルズは、テイラーメイドなパーソナルサービスで、すべてのトラベラーに個性あふれるホテル滞在を提供するスモールラグジュアリーなホテルを香港、中国本土、イギリスにおいて運営することを目的として発足しました。

ザ・オポジットハウスに続くオープニングは、香港のパシフィックプレイスに2009年夏にオープン予定の117室のラグジュアリーホテル、及び、2010年に広州の中心街天河地区に、100室のラグジュアリーホテルのオープンを予定しています。さらに、スワイヤー・ホテルズは、ライフスタイル・ビジネス・ホテルカテゴリーの「イースト」(343室)を2009年に香港島東部にもオープンし、イギリスでのスワイヤー・ホテルズは2009年に開始予定で、いくつかの町や市にラグジュアリー・ブティックホテルのコレクションを展開してゆく予定です。

このプレス・リリースに関するお問い合わせ、資料送付のご希望は、  
スワイヤー・ホテルズ(ザ・オポジットハウス)PR代理店、ケントス・ネットワークまでご連絡ください。  
Tel: 03-3403-5328 / e-mail: info@kentosnetwork.co.jp  
<http://www.kentosnetwork.co.jp/>